

2015年12月7日

日本ユニシス 国債 T+1 対応の保振・決済照合事務支援ソリューション「Preseak[®]21」開発開始 －保振・決済照合システムの新接続方式にも全対応－

日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：黒川 茂、以下 日本ユニシス）は、2015 年上期に実施が予定されている「国債取引の決済期間短縮化（国債 T+1）」^(注1)に向けた開発に着手しました。

また、株式会社証券保管振替機構（以下 保振）が運営する「決済照合システム」とのオンラインリアルタイム処理接続の新方式である JEXGW 接続方式^(注2)、および通信メッセージの新タイプである ISO20022^(注3)に対応した保振・決済照合事務支援ソリューション「Preseak21」の販売を開始しました。

日本ユニシスは「Preseak21」を 2001 年の保振の「決済照合システム」稼働時から、証券決済制度改革の制度変更に対応したソリューションとして多くの金融機関に提供してきました。今回、当社ではこれまでのノウハウ・実績を踏まえ、ソリューションの提供とあわせて金融機関での導入作業、保振との接続テスト支援、稼働後の保守運用支援までトータルなサービスを提供することで、「国債取引の決済期間短縮化（国債 T+1）」の実現を支援します。

今回、日本ユニシスが提供する「Preseak21」の特徴は、以下のとおりです。

1. 顧客ニーズに柔軟に対応

保振接続ゲートウェイ機能、電文変換機能、照合事務支援機能をそれぞれ独立した機能とすることで、金融機関の業務システムに合わせて「Preseak21」の必要な機能のみを選択することが可能です。また、電文変換機能を活用して ISO20022 形式の XML 電文から、業務システムのインターフェイスにあわせた電文フォーマットへの変換を実現しています。

2. 照合事務支援機能を GUI で提供

約定照合～決済照合～口座振替までの取引照合ステータスを管理する機能を GUI で提供。オペレーターの照合事務負担を軽減し、オペレーションリスクの低減を可能にします。

3. 柔軟な接続方式の提供

金融機関の業務システムと「Preseak21」とのデータ送受信に関する接続方式は、ファイル転送によるデータ連携方式、または、リアルタイムな非同期連携方式など柔軟な選択が可能です。

4. 移行時の業務システムへのインパクトを削減

従来の ISO15022 形式から ISO20022 形式への電文フォーマットの変更を、「Preseak21」の電文変換機能で吸収。業務システムへの変更リスクを最小限に抑制します。

5. クラウドでのサービス利用型でも提供

日本ユニシスが培ったクラウドサービスでの実績を活かし、利用型のサービス提供など、金融機関の規模やニーズに合わせ多様な提供方法を準備しています。

日本ユニシスは、市場系決済系領域において培った豊富なノウハウと技術を活かし、安全性と堅牢性を実現したソリューションとして、証券決済分野では「Preseak21」、資金決済分野では「Siatol[®]-SS/GS」^(注4)を提供します。証券決済分野では、今後「株式等の決済期間の短縮化（株式 T+2）」^(注5)も予定されており、当社では、引き続き、金融機関の決済照合事務の効率化、オペレーションリスクの低減を実現し、金融機関の業務発展に貢献していきます。

以上

注1：国債取引の決済期間短縮化

2009年9月に「証券決済制度改革推進会議」の下に、「国債の決済期間の短縮化に関する検討ワーキング・グループ」が設置され、決済短縮に向けての各種議論、検討が行われた結果、2014年11月26日「国債取引の決済期間の短縮（T+1）化にむけたグランドデザイン」が公表され、2015年6月24日に本制度実施目標時期が2018年上期の3連休と設定されました。

その決済期間短縮化の代表的な対応として、以下の2点が挙げられます。

1. アウトライト取引^{(*)1} およびSCレポ取引^{(*)2}のT+1化

アウトライト取引およびSCレポ取引については、現行の事務フロー、市場インフラを前提とし、約定日当日に約定照合、ネッティング^{(*)3}照合を完了させ、翌日に決済を行うものとなります。

2. GCレポ取引^{(*)2}のT+0化

GCレポ取引については、既存事務フロー、市場慣行ではスムーズに実現することが困難なことが予想されるため、新たな取引手法である銘柄後決め方式^{(*)4}の導入と、現在整備されていない市場インフラの導入によって、約定日当日中に決済まで完了させるものとなります。

*1 アウトライト取引

国債を単純に、買付や売付を行う取引のこと。

*2 SCレポ取引・GCレポ取引

レポ取引とは、現金担保付債券貸借取引（Repurchase transaction）の略で、現金を担保とした債券の消費貸借契約のこと。

当事者間において、債券の借り手は借入れ債券に対する貸借料を支払い、債券の貸し手（担保金の受け手）は担保金に対する金利を支払うが、その差額（金利－貸借料）がレポレート（日本版レポレート）と呼ばれている。

貸借銘柄を特定した取引の場合を、SC（Special Collateral）レポ取引という。

銘柄を特定しない取引を、GC（General Collateral）レポ取引という。

*3 ネッティング

対当する債券債務部分を相殺するように、各当事者間で国債の売付数量と買付数量、支払金額と受取金額の差額を計算し、その差額について各当事者間で決済を行うこと。

*4 銘柄後決め方式

約定時点では資金調達金額のみを決めておき、その後、約定済みのGCレポ取引に銘柄を割り当てる方式。

注2：JEXGW 接続方式

JEXGW システムと利用社のシステムが回線を介してメッセージ・キューイング型の通信を行い、処理を行う接続形態。

注3：ISO20022

2004年にISO/TC68によって制定された、金融業務で利用される通信メッセージの標準化手続に関する国際規格。登録の対象は、通信メッセージ・フォーマットのほか、その前提となった業務フロー、通信メッセージの要件なども含まれます。

注4：Siatol-SS/GS

Siatol-SS/GSは、日本銀行が運営する日本銀行金融ネットワークシステムの第二段階に対応した、日本ユニシスの日銀決済管理ソリューションです。

注5：株式等の決済期間の短縮化

2015年7月、株式などの決済期間短縮化の実施に向けた課題の整理・検討を行うため、「証券受渡・決済制度改革懇談会」の下に「株式等の決済期間の短縮化に関する検討ワーキング・グループ」が設置されました。

■関連リンク

国債取引の決済期間短縮化関連

日本証券業協会：http://market.jsda.or.jp/shiraberu/saiken/kessai/jgb_kentou/

株式等の決済期間の短縮化関連

日本証券業協会：<http://www.jsda.or.jp/shiraberu/minasama/20150313173226.html>

証券決済ソリューション「Preseak21」

日本ユニシス株式会社：<http://www.unisys.co.jp/solution/lob/fs/preseak21/>

日銀決済管理ソリューション「Siatol-SS/GS」

日本ユニシス株式会社：http://www.unisys.co.jp/news/nr_151112_siatol.html

※Preseak、Siatol は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のもので、その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。